化粧品ニュース

CoRe研修会を開催
ポーラの研究について講義





日本化粧品専門店協会（CoRe）は、「ポーラ化成見学およびポーラ・オルビスグループ研修・交流会」を9月9日に開催した。

はじめに、岡崎芳明理事長が登壇。ポーラの研究開発力と「こだわり」文化について説明が行われ、リンクルショット発売時に他社から脅威と評されたエピソードや、男性化粧品研究における歴史的考察（埴輪と髭）といった事例を挙げながら同社の開発力の素晴らしさに触れた。

その後ポーラ・オルビスグループの稲田研究員が講義。グループ研究開発・生産拠点（横浜研究所、袋井工場、2024年新設のTDC棟、外部連携拠点）の概要について説明が行われ、その中でPOLA最高峰ブランドである「B.A」を例に挙げ、研究成果を顧客価値へ転換するアプローチを詳述。

洗浄から始まる「全域ハリ」という新概念を提示し、クレンジングクリームからクリームまでの各アイテムに搭載された個別技術が、統合的に「全域ハリ」価値へと収束する設計思想を解説。

またオルビスでは、顧客の日常に寄り添い、言語化されていない悩みや「当たり前」の諦めを解消する価値提供を目指していると述べ、「オルビスユードット」の3ステップ設計のほか、「クレンジングオイル」は顧客の「仕方ない」という諦めに着目して開発された事例等が紹介された。

次の講義では、ポーラ化成工業の研究員である中谷氏が、①グループのマルチブランド相乗効果②研究員の戦略的アプローチ③工場の具現化力という3つの強みと、市場環境の変化への対応策について説明を行った。

研究所見学後、都内に場所を移し、ホールディングス横手社長、ポーラの小林社長、オルビス山口社長はじめグループ社員とCoReメンバーによる交流会が開催され、互いの情報交換と共に今後のさらなる協力体制について確認し合い、全行程を終了した。

GP認定制度で環境大賞を受賞
ファンケル

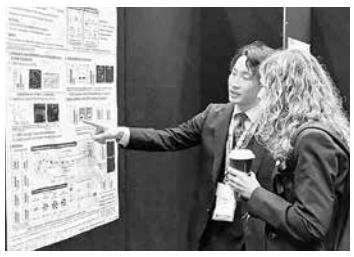
ファンケルは、一般社団法人日本印刷産業連合会が実施するグリーンプリンティング（GP）認定制度において、「2026GP環境大賞 一般印刷の部」を受賞した。

GP環境大賞は、印刷業界が地球環境への負荷低減に取り組むために創設したグリーンプリンティング（GP）認定制度に対して、深く理解し、積極的に活用している企業や団体に贈られる賞。今回は、2025年度に続く。

GPマークを表示した印刷製品を多く発注した企業・団体が表彰対象となっている。

同社は、持続可能な社会の実現とグループの持続的な成長に向け、「環境」をサステナビリティの重点テーマの一つに掲げている。製品だけでなく、消費者の手元に届く印刷物についても環境負荷の低減に努めることが重要だと考えている。限りある資源を大切にし、事業活動を通じてできることを考えながら、環境に配慮した取り組みを継続していきたいとしている。

ポスター発表を実施
IFSCCパース大会2026
アルビオン



アルビオンは、9月28日から10月1日までオーストラリア・パースで開催された第36回国際化粧品技術者会連盟（IFSCC）パース大会2026にて「超硫黄分子：ヒト皮膚におけるメラニン産生および紫外線防御の新たな主要制御因子」についてポスター発表を行った。発表者は、アルビオン 研究所 素材開発研究室 素材研究グループの南條利貴研究員。

超硫黄分子（ちょういおうぶんし）は、硫黄原子が複数結合した化合物群で強力な抗酸化作用や抗炎症作用が報告されている。アルビオンではこれまでに、超硫黄分子が皮膚に存在することを見出すとともに、皮膚の恒常性維持に重要な役割を担う角化細胞の遊走を制御することを明らかにしてきた。

今回、紫外線から肌を守るメラニンの産生を、超硫黄分子が制御することを新たに明らかにした。超硫黄分子合成酵素の働きを抑制し、細胞内の超硫黄分子量を減少させたところ、メラニン産生ならびにメラニン産関連遺伝子の発現が低下。さらに、超硫黄分子の減少に伴い、細胞機能の低下や老化に関連する変化も認められた。

これらの結果から、超硫黄分子はメラノサイトの正常な機能やメラニン産生の維持に重要な役割を果たし、肌の紫外線防御に関与している可能性が示された。同研究は、超硫黄分子の新たな生理機能を示すものであり、紫外線ダメージから肌を守り、健やかな肌状態の維持を目指したスキンケア技術の開発につながることが期待される。

同社では、今後も高級化粧品メーカーとして、国内外で高く評価・注目される研究開発に努め、消費者の喜びとご満足を追求していきたいとしている。

NCCへのご質問並びに入会申込みを随時受け付けております。NCCに興味のある方はこちらのQRコード「NCC公式LINE」からご連絡ください。

